

泉南市認知症コーディネーター

泉南市において、「地域包括ケアシステム」の構築のため、認知症になっても安心して暮らせる町づくりの推進役となる！認知症の人の尊厳を支え、本人本位の認知症ケアを推進し、介護されるご家族様を支援するのが認知症コーディネーターです！

認知症のことなら、なんでも

認知症コーディネーターにご相談ください！

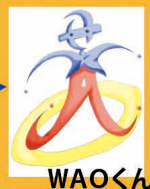
野上病院には、3名の認知症コーディネーターが在籍しています！

*三浦 千年（野上ケアプランセンター）

*原 美穂子（グループホーム平和苑）

*梶本 啓子（グループホーム平和苑）

認知症の
地域啓発にも
協力していきます！
家族だけで
悩まないくださいね



W 忘れてもだいじょうぶ
A あんしんと
O おもいやりの町 せんなん



のがみ泉州リハビリテーションクリニック透析について

こちらは、のがみ泉州リハビリテーションクリニック透析外来スタッフ一同です。私たちは腎臓の働きが悪くなった人に対して透析という治療を行なっています。現在当院では130～140名の患者さんが透析療法を受けておられます。患者さんの通院範囲は泉佐野、泉南、阪南におよび通院困難な人には送迎車も用意しています。

透析療法は、働きの悪くなった腎臓のかわりに、機械を使って血液のなかの尿毒素を抜きとる治療法です。透析治療が始まって40年以上になりますが、近年の機器の進歩により初期のころと比べて高齢の方に対しても安全に透析を行なうことができるようになっていました。しかしその一方透析機器の準備や操作に、どうしても業務時間の多くをとられてしまいます。また患者さんの高齢化が進むにつれて、合併症のおこる可能性も高くなり、検査や治療、入院に関わる業務や、さらに看護、介護に費やす時間も増えています。

これらの業務を省力化し向上させるための目的で、当院では平成25年10月から最新の透析管理医療機器を取り入れました。今まで手動で行っていた透析機器に関わる作業を、ある程度機械が自動で行なってくれるようになりました。新しいシステムにしたことによって、患者さんそれ

ぞれの透析条件や使用薬剤の管理が容易になり、これらの設定や準備のミス、透析記録への記載ミスもなくなりました。またそれにより業務に費やされる人員や時間も少なくなり、その分、患者さんに関われる時間が多くなって、今まで以上に親身になって患者さんからの話を聴くことができるようになりました。それを看護の形として皆さんにお返ししています。私たちスタッフ一同は透析を「元気を取り戻すための手段」と考え、患者さんの前向きな生活を応援することを目標に頑張っています。

今後私たちは、透析室全スタッフが最大限看護に取り組み、日々切磋琢磨し、患者さんへの観察強化、ゆとりある看護を行い、かつ安全で安心な透析治療を提供していこうと考えています。最後に今後の透析医療の考え方として、人にしか出来ないことは「人」、機械に任せられることは「機械」へとシフトしていくことで、人のもっている「おもいやり」が生かせると考えています。

もし透析医療について興味があれば気軽に透析室を訪ねてみて下さい。

（透析室 正木勇治）

病院1F 第2透析室の診療再開に向けて

医療機器管理室 山下 正樹

7月28日から

日機装（株）、PFU（株）、ダイセンメンブレン（株）、パラマウントベッド（株）のご尽力により、装置のオーバーホール、オンラインHDF対応するため装置の改造、オンライン対応の配管敷設、透析管理システムのためのLAN工事は無事終了いたしました。

2013年11月 病院 医療機器管理室開設後、病院透析室整備工事は大きな業務イベントとなりました。全7床と透析室としては、少ないベッド数ですが、その内容は、2年近く使用中止した装置のオーバーホール、オンラインHDF対応するため装置の改造、オンライン対応の配管入替え、透析管理システムFNWのためのLAN工事とメニューは多岐にわたりました。

8月4日から30日までの

バリデーション運転（透析配管の洗浄運転）の実施と並行して病院透析チームのベッドや備品の搬入、環境整備を経て、8月26日に最終工程のPFU社によるサーバー改変作業と端末設定を実施し、9月1日の透析室診療の開始を迎える状況となりました。



＜工事開始前の第2HD室＞



＜日機装社の作業風景＞